

八雲町との交流概要



令和5年11月

小牧市

1. 八雲町との交流の経緯

＜先代の縁＞

明治11年、尾張徳川家第17代当主徳川慶勝氏が北海道遊楽部原野の開墾を開拓使に願い出るとともに、旧尾張藩から八雲へ、人々の移住を推進した。

その後、愛知県全戸から続々と入植し、大正7年には愛知県出身者の家が600戸、うち小牧からの入植も70戸を数えたという。

＜小牧山と徳川家＞

小牧・長久手の合戦以降、小牧山は長年尾張徳川家の所有となっていたところ、昭和2年には国から史跡（文化財保護法第109条）に指定され、今日と同じように一般に公開されるようになった。

昭和5年、尾張徳川家第19代当主徳川義親氏により、小牧山は当時の小牧町へ寄贈された。

＜交流のはじまり＞

昭和57年に実施された小牧山公開55周年記念事業の際、ご臨席されていた尾張徳川家第20代当主徳川義知氏が小牧市と八雲町との交流を提言されたのがきっかけとなり、両市町の交流が始まった。

昭和58年1月に児童交流が開始されただけでなく、平成元年には小牧市・八雲町交流市民の会が設立され、市民交流の輪が広がっている。

2. 八雲町の概要

（1）位置

北海道渡島半島の北部にあり、道南の拠点都市函館市と全道有数の重工業都市室蘭市の中間に位置している。平成17年10月1日には日本海側の旧熊石町と合併し、日本で唯一太平洋と日本海を併有する町となった。

（2）面積・人口

- ・約955.98km²（小牧市の約1.5倍）
- ・約1.5万人（令和5年9月末時点）

（3）気候

太平洋側と日本海側で異なり、太平洋側が年平均気温8.2度、暖流の影響を受ける日本海側が年平均気温9.5度となっている。

降水量は、日本海側が冬に多く夏に少なくなるのに対し、太平洋側では夏に多く、冬に少なくなる傾向が見られる。



(5) 交通

函館市と札幌市を結ぶ国道5号、日本海側の幹線道路である国道229号、太平洋と日本海を最短距離で結ぶ国道277号が通り、渡島半島の交通の要衝となっている。平成18年には道央自動車道の八雲IC、平成21年には落部ICが開通し、札幌からの交通の便も向上した。

(6) 産業

八雲町は、道南地方を代表する農業地帯である。八雲地域では冷涼な気候を活かした酪農を中心に水稻と畑作が営まれ、熊石地域では施設野菜が栽培されている。酪農については早くから西洋農法を積極的に導入したため、北海道酪農の発祥地と呼ばれている。また、馬鈴薯（種イモ）が古くからの基幹作物であり、酪農家が草地などとともに輪作で栽培している。

漁業においては、太平洋側では噴火湾でのホタテを中心とした栽培漁業のほか、各種漁船漁業が行われている。日本海側の熊石地域ではイカなどの漁船漁業のほか栽培漁業も盛んで、とりわけ温泉熱と海洋深層水を活用してアワビ養殖に積極的に取り組んでいる。

また、熊石地区においては、海洋深層水総合交流施設を開設しており、日本海側の海洋深層水の利活用に取り組んでいる。

※ (1)～(6)は八雲町HPを参考

(7) 八雲といえば

- ・ 噴火湾（内浦湾）で獲れるホタテや鮭は絶品！
- ・ バター飴・木彫り熊 発祥の地！
- ・ 秘境の温泉で大自然に囲まれ癒される！
- ・ ご当地グルメ「二海カレー」がおすすめ！



(8) 四季折々

木彫り熊

5月中旬～下旬	桜の見ごろ
7月第1週金・土曜	山車行列（小牧平成夏まつりの手本となったまつり）
10月中旬～下旬	紅葉
10月上旬～11月下旬	鮭の遡上
2月上旬	さむいべやまつり（日本一といわれる氷の滑り台）

3. これまでの両市町の主な交流

年 度	概 要
昭和 57 年度	小牧山公開55周年記念事業の折、尾張徳川家第20代当主徳川義知氏が小牧市と八雲町の交流を提言 八雲町児童15名が小牧市を訪問、児童交流開始
昭和 60 年度	小牧市制30周年を記念して八雲町より熊の剥製寄贈

年 度	概 要
平成元年度	小牧市・八雲町交流市民の会設立 八雲山車行列を見本にした小牧平成夏まつり開始
平成 2 年度	小牧市制 35 周年記念で、小牧市と八雲町の交流拠点となる小牧荘完成
平成 9 年度	小牧小売酒販組合小牧支部と八雲町物産協会が友好提携
平成 10 年度	小牧市・八雲町交流市民の会設立 10 周年を記念して小牧市及び八雲町において記念植樹祭実施 第 10 回小牧平成夏まつりに八雲山車及び八雲町民が参加
平成 12 年度 ～14 年度	小牧市及び八雲町においてツツジの交換植樹
平成 14 年度	八雲町在住の高見氏より小牧市へポニー2頭寄贈
平成 15 年度	小牧市民四季の森においてポニー2頭を含むちびっこ動物村開設
平成 17 年度	小牧市制 50 周年を記念して八雲町よりサクラマンガン寄贈
平成 19 年度	小牧市内で落部漁協や小牧市・八雲町交流市民の会により 八雲町直送ホタテ販売(翌年度からは小牧市民活動ネットワークが実施)
平成 20 年度	小牧市において小牧市・八雲町交流 20 周年記念式典、記念植樹実施 (尾張徳川家第 22 代当主徳川義崇氏臨席) 八雲町において 20 周年記念事業秋の交流会、記念植樹実施
平成 21 年度	「やくもミルクロードレース」及び「小牧シティマラソン」上位入賞者を毎年相互に招待開始
平成 22 年度	八雲町において「小牧市と交流する八雲町民の会」発足、発足記念ツアーとして市内各所及び小牧市民まつりを視察 中部フィルハーモニー交響楽団が八雲町内において児童生徒に技術指導するとともに、演奏会を実施
平成 23 年度	八雲町から小牧市へ、小牧市から八雲町へそれぞれ1名の職員を派遣する職員交流開始 東日本大震災により八雲町のホタテ養殖業が甚大な被害を受けたことに対し、小牧市・八雲町交流市民の会が定期総会の折に募金を行い、八雲町へ寄付 小牧市から、八雲町へ八雲町水産被害復興支援として見舞金を寄付 「小牧市及び八雲町災害時相互応援協定」を締結 小牧平成夏まつり、小牧市民まつりにおいて集まった義援金の一部を八雲町へ寄付 小牧荘が廃止
平成 24 年度	八雲町内20ヶ所の宿泊施設を対象とした八雲町宿泊施設利用助成金の運用開始 小牧平成夏まつり、小牧市民まつりにおいて集まった義援金の一部を八雲町へ寄付

平成 27 年度	小牧市制 60 周年を記念して八雲町よりルウンテ(アイヌの伝統衣装) 寄贈
平成 29 年度	八雲町在住の黒島氏より小牧市へポニー1頭寄贈
平成 30 年度	小牧市において小牧市・八雲町交流 30 周年記念式典実施 (尾張徳川家第 22 代当主徳川義崇氏臨席) 八雲町より小牧市へ木彫り熊2体(面彫り、毛彫り)、小牧市から八雲町へ漆 工芸品(浅井啓介氏作)の記念品交換 第37回八雲町山車行列に副市長、副議長、小牧平成夏まつり実行員会正 副委員長出席、交流会 2018 実施 第 30 回小牧平成夏まつりに八雲山車が参加、終焉
令和元年度	小牧市民まつり第40回開催記念事業として、じゃがいもの袋詰めや鮭鍋販 売などを行う「八雲町広場」を実施
令和 4 年度	八雲町長が小牧市民まつりのオープニングセレモニーであいさつ 小牧市民まつりにて「八雲町広場」を設置し、じゃがいもの即売会やブース にて PR を実施
令和 5 年度	八雲町長が小牧市民まつりパレードにてオープンカーに乗車 八雲町在住の黒島氏より小牧市へポニー1頭寄贈

4. 小牧市・八雲町交流市民の会

小牧市民と八雲町民とが互いに友情を深め、経済、文化などを通じての交流を図り、もって両市町間の発展に寄与することを目的とし、平成元年に小牧市において設立された。

両市町の交流に関心があれば誰でも入会できるこの会は、現在、法人会員 3 社、個人会員 337 名（令和 5 年 3 月現在）を有している。

毎年、会員には八雲町特産物の昆布醤油などを配布しており、また、毎年八雲町民と交流を深める交流会（ツアー）を実施するなど、小牧市において八雲町との交流発展を支えている。